

文部科学省  
中央教育審議会 大学分科会 将来構想部会

# 高等教育財のグローバル生産軌跡

## これからの時代に求められるリベラルアーツ

公立大学法人国際教養大学

理事長・学長 **鈴木 典比古**

2017年11月8日

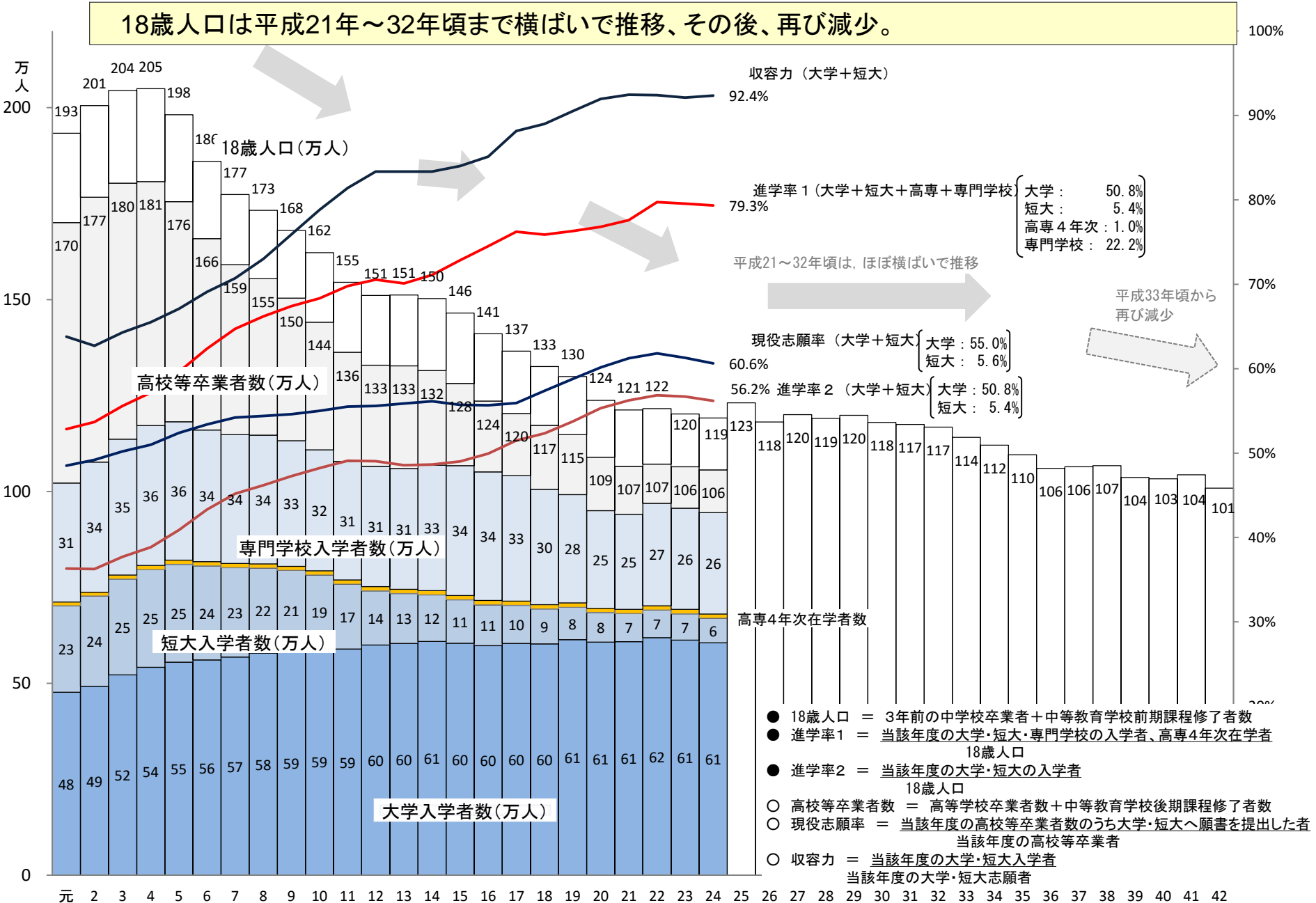
## § 1 2020年の高等教育主要国

- 2009年の世界の大学生 1億7千万人  
2020年の世界の大学生 2億9千万人(年率5%増)
- 2009年の高等教育主要国  
中国、インド、米国、ロシアで全世界の大学生の45%
- 2002年から2009年までの全世界の大学生は55百万人増加  
そのうちほぼ半数(26百万人)は中国とインドの増加
- 2002年から2009年までの期間で大学生増加率の大きかった国

国名	大学生数	増加率
トルコ	3百万人	74%
ブラジル	6,2百万人	68%
インドネシア	4,9百万人	53%

# 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 ⇒大学冬の時代は続く…

18歳人口は平成21年～32年頃まで横ばいで推移、その後、再び減少。



進学率1 (大学+短大+高専+専門学校) 大学: 50.8%  
短大: 5.4%  
高専4年次: 1.0%  
専門学校: 22.2%

進学率2 (大学+短大) 大学: 50.8%  
短大: 5.4%

- 18歳人口 = 3年前の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者数
- 進学率1 = 当該年度の大学・短大・専門学校の入学者、高専4年次在学者 / 18歳人口
- 進学率2 = 当該年度の大学・短大の入学者 / 18歳人口
- 高校等卒業生数 = 高等学校卒業生数+中等教育学校後期課程修了者数
- 現役志願率 = 当該年度の高校等卒業生数のうち大学・短大へ願書を提出した者 / 当該年度の高校等卒業生
- 収容力 = 当該年度の大学・短大入学者 / 当該年度の大学・短大志願者

出典: 文部科学省「学校基本調査」、平成37年～42年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(出生中位・死亡中位)」を基に作成

## § 2 2020年の高等教育主要5ヶ国

- 大学進学率が最も増加するのは中国  
2012年—24%、 2020年—38%
- 大学生数—上位5ヶ国で1億人

順位	国名	大学生数
1	中国	37百万人
2	インド	28百万人
3	米国	20百万人
4	ブラジル	9百万人
5	インドネシア	7,8百万人

- しかし、2020年以降、大学生数減少する国  
中国／ロシア／ドイツ／韓国／日本

## § 3 大学生の国際間移動

- 2009年 3.5百万人
- 世界の全大学生の2%
- 2020年 5.8百万人
- EU内のエラスムス計画 43万人(2010年)

国名	大学生数(人)
英国	123,192
ドイツ	50,998
オーストリア	45,518
フランス	43,341
チェコ	25,359
オランダ	22,049
ギリシャ	15,067
イタリア	14,491
スペイン	14,053
ベルギー	11,526

Robin Middlehurst,  
Trends & Issues in International  
Higher Education, CHEA Conference,  
Washington D.C. 2013.1.28 より



## § 4 大学の海外進出—教育財海外生産—

- 約250大学(米、英、豪中心)が海外校(Branch Campuses)を設置運営
- 進出先は中近東からFar Eastへ
- 米国の大学が最大(77大学)
- Niche campuses構想
- 受入れ国の対応(Education Hubs)

アラブ首長国連邦  
カタール  
香港  
クアラルンプール  
バーレーン  
パナマ  
シンガポール  
韓国

アブダビ、ドバイ  
Education City  
  
Kuala Lumpur Education City  
  
City Of Knowledge  
Global School House  
Incheon Free Economic Zone  
Jeju Global Education City



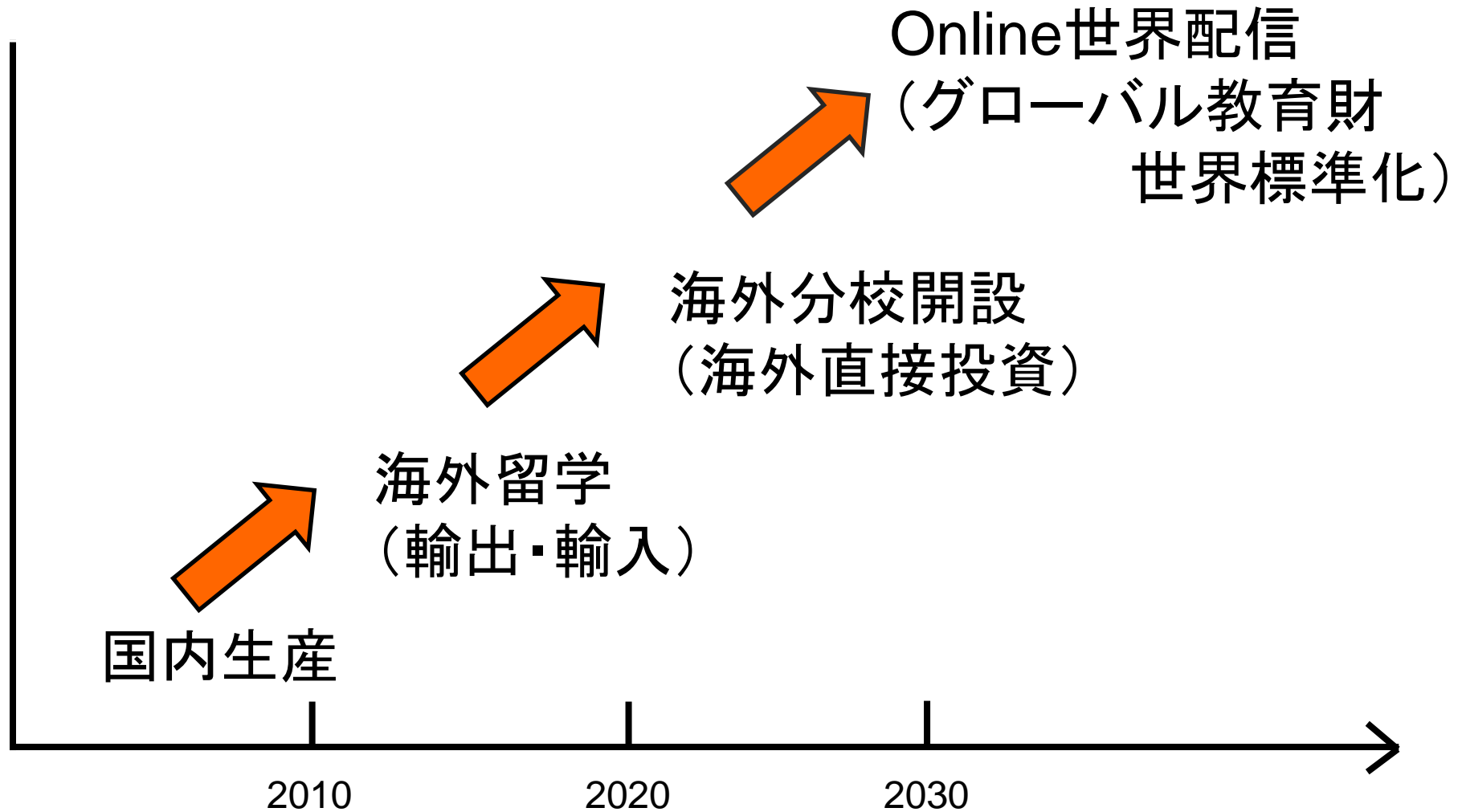
## On Line学生の増加(Robin Middlehurst)

- 2011年 21百万人(1科目以上履修しているのは6,7百万人)
- 主要なMOOCs
  - edX
  - Coursera
  - 米国大学(著名大学多数)の2.6%がMOOCs開講  
(例:33大学で2,4百万人)
  - 9.4%が開講予定
  - 州立大学の4.7%が開講

Koller & Ng, The online Revolution: Education for Everyone,  
CHEA Conference, Washington D.C. 2013.1.27 より

- ACE (American Council on Education) が履修科目の単位認定を検討
- アジアへのMOOCs伸長

## § 6 高等教育財のグローバル生産軌跡





## § 7 20世紀の大学教育と21世紀の大学教育

### 20世紀の大学教育

- \* 大量生産大量消費の産業社会
- \* **人工植林型教育**－同質的な人材を大量に供給
- \* 専門教育－深いが狭い分野を専攻←偏食型
- \* 知識の伝授－Arts and Sciencesの内のScience重視
- \* 教師は教え、学生は学ぶ一方通行の**受け身授業**
- \* 学士力 = f (教育力)
- \* 指導要領による授業

## § 8 20世紀の大学教育と21世紀の大学教育

### 21世紀の大学教育

- \* 活動による学び→Active Learning「行動するリベラルアーツ」へ
- \* **雑木林型教育**—一本として同じ樹木はない→「**個**」の確立
- \* 全人力教育←好き嫌いなく食べる
- \* 授業は教師と学生の共創物
- \* 双方向的授業—語るべき自己をもつ→「予習」「復習」必須
- \* シラバスによる授業
- \* 学士力=教師力、教師力=g(学士力)の2態
- \* 試される教師のクラス・マネジメント力



## § 9 リベラルアーツ —「個」の確立のための教育—

- 「**個**」としての全人力を涵養する
- 個は相手があって初めて確立できる
- 個の確立はピンポンの打ち合いによる彼我の認識
- 途切れない**対話の継続**がリベラルアーツにおける個の確立の基本
- 異文化間や多様性の中での継続的対話が国際リベラルアーツへの道を開く
- 一般教育と専門教育の関係は**T**の字形

### 双方向授業によるリベラルアーツ論

- \* リベラルアーツの対話的授業にとって予習・復習は必須
- \* シラバスは授業進行の**工程表**であり教師と学生の契約書
- \* 大学4年間の授業(124単位)とは  
40枚(1科目3単位x40科目=120単位)のシラバス台本による40幕物の演劇を4年間かけて演じてゆくことである。
- \* 20世紀の静態的クラスマネジメント  
「演技者—教員、観客—学生」  
21世紀の動態的クラスマネジメント  
「演技者兼黒子—教員、演技者兼観客—学生」

## § 11 International Liberal Arts とはー

Liberal Arts的枠組みでの授業を  
国際的、グローバルな状況の中で行なうことである

